

2020年東北学院大学文学部教育学科公開連続講義  
2021年2月8日(月)～2月14日(日)

## 教育の未来

—— コロナ禍・デジタル化・少子化の先にある公教育を考える ——

The Future of Education

—— Public Education beyond COVID-19, Digitalization and Fewer Children ——

講師：稲垣 忠（東北学院大学文学部教育学科 教授）

キーワード：テクノロジー，学びの保障，オルタナティブ教育，公教育

Key words : technology, guarantee of learning, alternative education, public education

本報告は、2021年2月8～14日の日程でWebにて公開された、東北学院大学文学部教育学科の公開連続講義「教育の未来——コロナ禍・デジタル化・少子化の先にある公教育を考える——」の内容をまとめたものである。

### 1. はじめに

学校教育の未来・将来像を語る声が増している。明治5（1872）年の学制発布から数えれば日本の公教育の歴史は150年を迎えようとしているが、その現状は順風満帆とは言い難い。社会が求める力と学力の乖離、いじめや不登校の増加、ブラック校則、教員の過酷な労働環境等、問題は多岐にわたる。これらに対し、「社会に開かれた教育課程」の実現を掲げた学習指導要領の改訂、児童生徒に一人一台のコンピュータを配布するGIGAスクール構想、35人学級の実現など、矢継ぎ早にさまざまな政策が打ち出されている。各地の教育委員会や学校でも、新たな学校や教育制度への関心が高まっている。

本稿では、教育の諸課題に対してシステムのアプローチによる問題解決を志向する教育工学の立場から、公教育における教育改善のためのテクノロジー利用の経緯と現状、公教育制度の再設計を含む新たな展望について諸施策の動向を踏まえて検討する。

### 2. 教育におけるテクノロジー利用の小史

学校の誕生以来、教室ではさまざまな道具（＝テクノロジー）が授業のために用いられてきた。大別すれば黒板、チョークなど教師の指導の道具（教具）とノートと鉛筆といった児童生徒の学習の道具がある。教具だけみても、掛図、幻灯機、映画、ラジオ、テレビ、OHPとさまざまなメディアが取り入れられてきた。現在では、多くの教室にプロジェク

ターやテレビ、電子黒板等の大型提示装置と実物投影機が整備され、日常的に使用されている。指導者用デジタル教科書の整備率は50%を超え、学習者用デジタル教科書を紙の教科書に替えての使用するルールについても議論が進んでいる。

一方、学習の道具は明治～昭和初期までの石板と石筆から次第に紙と鉛筆に替わられた。2019年に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想」では児童生徒全員にコンピュータを配布し、文具として活用する。5年に渡る整備計画はCOVID-19により前倒しされ、2020年度中にほぼ全国の学校に行き渡る。学ぶ道具としてのコンピュータ利用は1980年代から試みられてきたが、限られた台数を限られた場所での活用に限定されていた。紙と鉛筆の日常が無くなる訳ではないが、100年ぶりの環境変化とも言えるだろう。

### 3. 学びを保障するのは誰か

授業で使われる教具・文具は時代に合わせて変化してきたが、学校外の変化の波はさらに大きい。コリンズとハルバーソン(2020)は徒弟制から公教育成立までの歴史を振り返った上で、近年の情報化、SNSや人工知能の発達により、学校外でいつでも、どこでも、何でも学ぶことが出来る生涯学習社会へ移行しつつあり、学校は学校外で広がる学びとの連携、役割分担が不可欠であるとした。日本ではCOVID-19による2020年3月から1ヶ月以上に渡る臨時休校措置の間、数々のオンライン教育サービスが学びの保障のために活用された。災害時、不登校、院内学級、少子化による統廃合など、通学が困難な状況は少なくない。学びを保障するために学校は、多様な機関・機会との連携が求められている。

### 4. 公教育をめぐる新しい取り組み

多様化する公教育の中で学校はどのような役割を果たすのだろうか。中央教育審議会(2021)の答申では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を令和の日本型学校教育のモデルとした。個別最適化は米国のAlt School等、テクノロジーを大胆に導入した先事例がある。協働的な学びは日本の学校教育の強みでもあり、探究学習が中核となる。個別化と協働化の組み合わせは、世界各国で長く取り組まれてきたオルタナティブ教育(永田2005)の実践にも通じる。時代の要請とテクノロジーの進化を契機とした公教育のパラダイムシフトが起り始めている。

### 参考文献

- コリンズ, A. & ハルバーソン, R. (2020) デジタル社会の学びのかたち Ver.2, 北大路書房  
永田佳之 (2005) オルタナティブ教育—国際比較に見る21世紀の学校づくり, 新評論  
中央教育審議会 (2021) 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)